

換気の徹底と生育に応じた水管理で、がっちりした苗に育成する
老化苗を防止し、初期分けつの確保に向けて

- ① 5月15日植えの育苗日数は18～20日間
- ② 栽植密度70株/坪、植付深さ3cm、植付本数3～4本/株
- ③ 田植後の深水管理と活着後の浅水管理

1. 育苗管理（硬化期）

(1) 管理のポイント ハウス内の温度が高い場合には搬出直後からでも換気を徹底する。

温度の目安	昼25℃以下、夜10℃以上に保つ。
かん水	かん水は、原則として朝に十分な量を散布する。 日中も表土が乾く場合はさっとかん水する程度として苗を冷さない。
田植7日前から	夜もハウスのすそを開けて苗を外気に慣らす。

(2) 苗箱施薬

- ・病虫害防除のためエバーゴールドプラス箱粒剤(播種時覆土前～移植当日)50g/箱を施用する。
- ・JAからの購入苗は、施用済み。
- ・施用済み苗箱を搬入した育苗ハウスでは、育苗後に野菜等の作付は行わない。

2. 代かき・田植作業

(1) 丁寧な代かき作業で、ほ場を均平に整える。

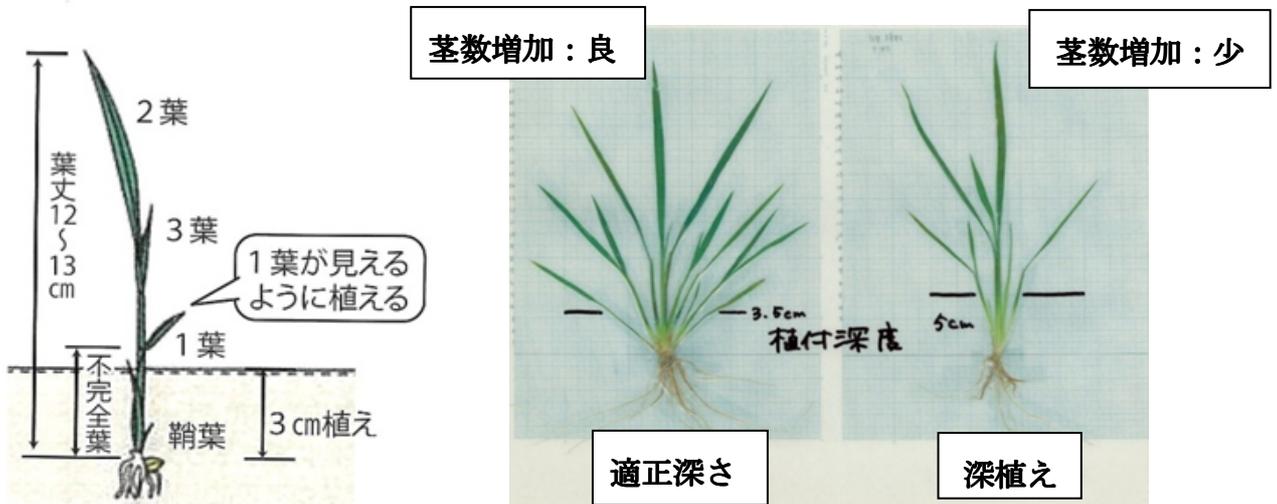
- ・代かきから田植えまでの日数は5日以内を目安とする。
- ・水を少なめにし、稲ワラや雑草をしっかりすき込む。

(2) 基肥量を調整する。

- ・地力に応じた施肥量に設定する。(栽培こよみを参照)
- ・転作跡田は[Jコート豆あとコシヒカリ]を施用する。

(3) 田植始めの植付状態を確認し、設定を調整する。

- ・植付深さ、植付本数レバーを調整して的確に植付作業を行う。

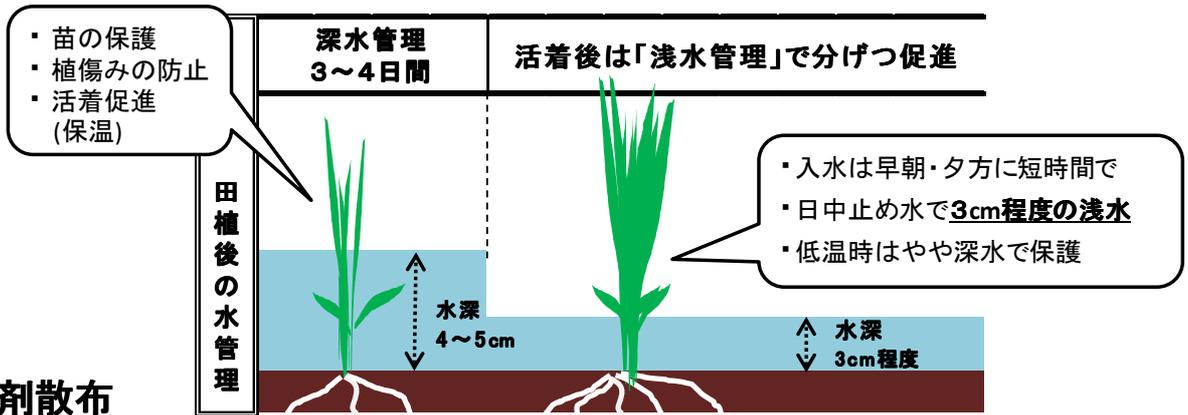


[田植時の稲姿の目安]

[植付深さを変えた稲の生育比較 : 田植後17日目に調査]

(裏面に続く)

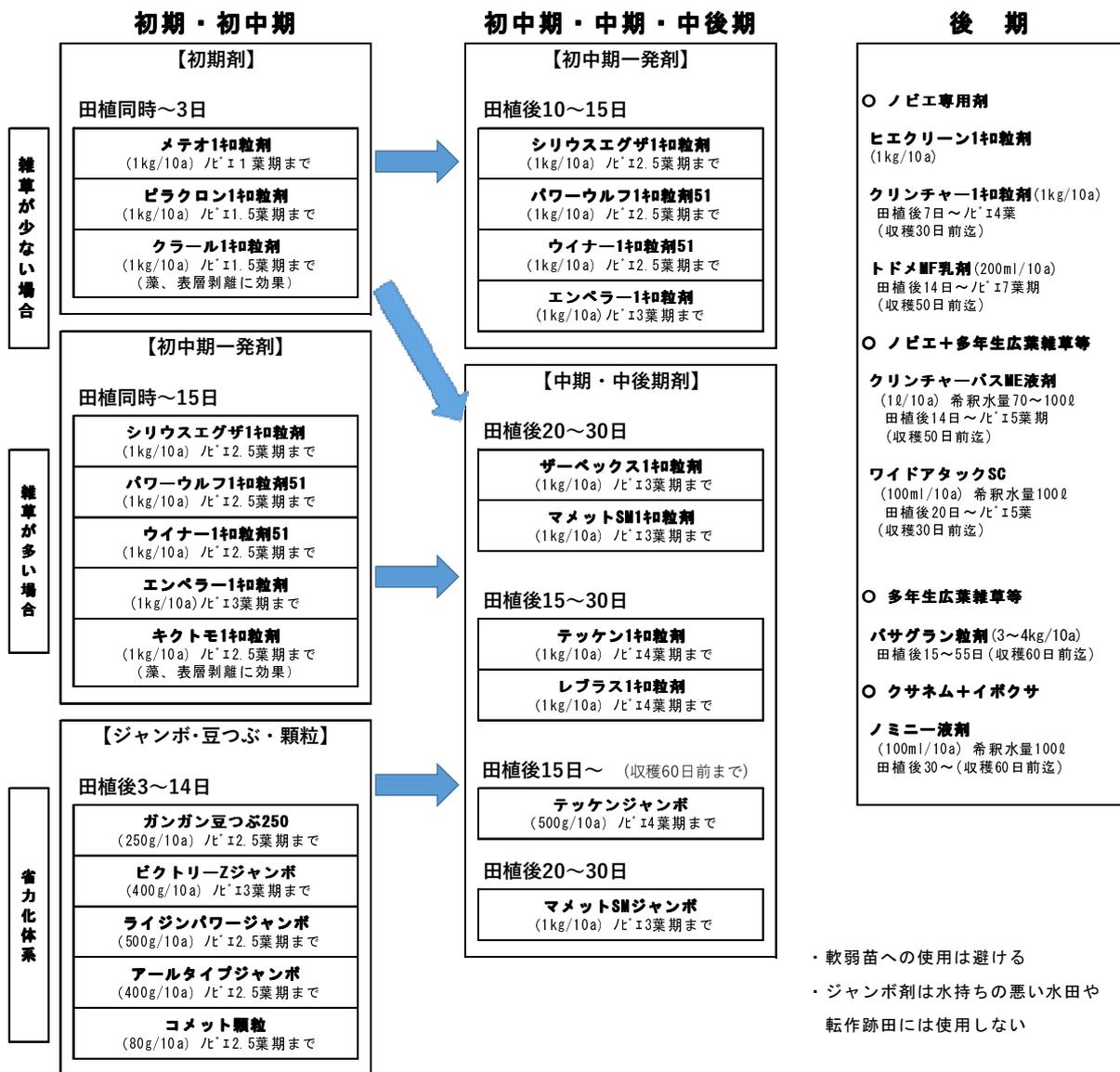
3. 田植後の水管理



4. 除草剤散布

- ・高温になると雑草の発生や生育が早まるため、除草剤は登録期間内の早めの時期に散布する。
- ・散布時は5 cm以上の湛水状態とし、散布後5日間は湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしない。

◎除草剤の体系



4/1～5/31 春の農作業安全運動実施中！

【お問い合わせは JAいみず野営農指導課 TEL52-6805 高岡農林振興センター農業普及課射水班 TEL26-8478 まで】

【JA いみず野ホームページ <http://www.ja-imizuno.or.jp/> 高岡農林振興センターホームページ <http://www.pref.toyama.jp/branches/1632/>】